

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表

平成31年3月5日

事業所名 キンダーハイム地域支援事業

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|--------------------------------|--|----|-----|---|------------------------------------|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 5 | | ・個別の取り組みのため集中しやすい広さと環境に配慮している。 | |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 5 | | ・基準配置に対し1名の加配。 | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 5 | | ・玄関から部屋まで段差がない。 | |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 4 | 1 | | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 5 | | | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 2 | 3 | | ・掲示板にて公開します。 |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 1 | 4 | | ・現在は第三者による外部評価は行っていません。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 5 | | ・年間通して、様々な研修を行っている。また外部研修にも参加している。 | |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 5 | | ・利用開始時に言語検査を行い、保護者との懇談も合わせて実施。 | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 4 | 1 | | |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 2 | 2 | | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 3 | 2 | ・お子さんの課題と興味関心に合わせて、活動プログラムを用意している。 | ・これからもお子さんの課題に合ったプログラムを提供するよう努めます。 |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 2 | 3 | | |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 2 | 3 | ・個別の言語訓練を行っている。 | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 2 | 3 | ・個別訓練のため担当者が前回の様子を踏まえ、その日の準備を行っている。 | |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 2 | 3 | ・担当者が振り返りを行い、状況に合わせて児童等に伝えている。 | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 5 | | ・お子さんの取り組みの様子や振り返りを記録し、次回の支援の立案に役立てている。 | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 5 | | ・6か月を目安にモニタリングを行い、計画の見直し等について検討している。 | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている | 2 | 3 | | ・ガイドラインを職員全員に配布し、読み合わせをします。 | |

| | | | | | | |
|--------------|---|---|---|-------------------------------------|---|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 4 | 1 | | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | 2 | 3 | ・必要に応じて行っている。 | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | | | ・現在、医療的ケアが必要な方のご利用はありません。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 4 | 1 | ・必要に応じて行っている。 | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 2 | 3 | ・必要に応じて行っている。 | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 4 | 1 | ・必要に応じて行っている。 | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | 5 | | |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 2 | 3 | ・施設長が参加。 | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 5 | | ・個別の取り組みの後に保護者の方とフィードバックの時間を設けている。 | ・保護者の方からのご相談をうかがったり、お子さんが取り組む姿からアドバイスをお伝えしたりし、お子さんの共通理解に今後も務めます。 |
| 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 4 | 1 | ・保護者の方からのご相談内容に合わせ、関わり方等について助言している。 | | |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 4 | 1 | | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 5 | | ・フィードバックの時間を使い、保護者の方のご相談に合わせ、助言や支援を行っている。 | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | | 5 | | |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 5 | | | |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | | 5 | | ・個々にご連絡しているため、現在は会報等の発行はありません。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | 5 | | | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 4 | 1 | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | 5 | | |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|----------------------|--|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 5 | | | ・マニュアルがあることを保護者の方にお伝えします。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 5 | | | ・みなさんにご参加いただけるよう、実施回数を増やします。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 5 | | ・毎年研修に参加。 | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 5 | | ・契約時に確認しています。 | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 1 | 4 | ・契約時にアレルギーや服薬について確認。 | ・食の提供は現在行っていないため、アレルギー確認はしていますが対応はしていません。今後取り組みの必要に応じて対応します。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 4 | 1 | | |